

平成 26 年度 第 3 回行政改革推進委員会会議録（要旨）

平成 26 年 7 月 8 日（火）13：35～15：30

市役所本館 4 階第 5 会議室

※委員委嘱

委員に異動があったため、新委員を委嘱

議題 行財政改革指針（仮称）及び取組項目について

■会長

本日は、第 2 回会議の意見を踏まえ事務局が作成した行財政改革指針案について、審議をしていきます。まず、事務局から指針案について説明をしていただきます。

●事務局

前回の会議で委員の皆さまからいただいたご意見に「各課 1 つは取組項目をあげてもらいたいのが望ましい。」「企業やコミュニティとの協働についても取り組んではどうか。」といったことがありましたので、庁内会議を開催し、その旨を各課に通知しまして取組項目の再度の募集をさせていただいているところです。

それでは、指針案についてご説明させていただきます。

まず、「これまでの行革の成果は、歳出削減以外にもあったはずなので、振り返りは項目別に入れてもらった方がよいのではないか。」といったご意見をいただきましたので、歳出削減以外の項目も追記しました。

「統計的な数字がないので、伊勢市の印象がない。」というご意見に対しましては、人口の推移についてグラフを追加しました。

「行革の視点が突然出てくるので、前段に説明を置いて位置づけの明確化をした方がよい。」という意見に対しましては、これまでの大綱から今回は指針の策定とした流れや、視点についての説明を入れました。

「行革が支えるイメージ」につきましては、行財政改革のイメージ図で表現しました。

「選択と集中について、取組項目に具体的な記述が見られない。」につきましては、具体的な取組項目の 2 事業実施の最適化の「公共施設マネジメント事業の推進」は選択と集中の考え方からなっています。

「行革に普遍的という表現は相応しくないのではないか。」につきましては、説明をする中で分かりやすく伝えるために口語で普遍的という言葉を使用しましたが、文章中には使用しておりません。イメージとしては普遍というより中

期ぐらいが適切かと考えています。

以上が事務局からの説明となります。

■会長

事務局から指針案について説明がありました。それでは、この指針案について、ご意見をいただきたいと思います。

■A委員

第一次行財政改革で35億円、第二次行財政改革で30億円の削減がなされたということですが、当初に目標を掲げていたのか。結果的に出たものなのでしょうか。

●事務局

目標を掲げていたのではなく、結果的にです。

■A委員

今回も目標は掲げなくてよいのですか。

●事務局

今回も目標は掲げない予定です。これまでの削減効果で一番大きかったのは職員数削減です。金額の設定ではなく、定員管理の人数での削減目標は掲げていました。平成24年度末で計画期間が終わり、平成25年度で検証し、平成26年度からの定員管理は置かないことになりました。

■A委員

職員を増やすという考えはないのでしょうか。

●事務局

国体の開催などの新たな業務もありますが、今は増やすことは考えていません。また、平成27年4月の採用は減員で動いていくとのこと。清掃などで民間委託を進めることもあり、業務員の減員があります。

■A委員

48億円は、財政調整基金を取り崩すということでよいのでしょうか。

●事務局

平成26年度～平成29年度の推計では、足りない分は財政調整基金を充てることで組みますが、現実的には国からの補助などいろんな要素があって、結果

的に合併以降、財政調整基金を充てないで済んでいます。ただ、見込みとしては充てざるを得ないということをご理解いただきたい。

■ A 委員

数字でなくても、目標を乗せることをしなくてよいのでしょうか。

● 事務局

貯金を充てる見込みについて、現実的には書きようがなく難しいのです。

■ A 委員

取組項目には、目標があるのでしょいか。

● 事務局

取組項目は、数値目標で削減額を置けるものは置いています。歳出削減として全体でいくらを目標とするとは言い難いですが、取組項目の削減額の積み上げレベルならば可能です。

■ B 委員

指針案は、行政の一方向的な記述で、市民との一体感が感じられないと思います。それを指針の中でうたうのは難しいですか。

● 事務局

市では、新しいコミュニティとしてまちづくり協議会的なものとして地区みらい会議を平成 27 年 4 月からスタートさせる予定です。産みの苦しみはありますが、地区みらい会議で地域も含めた活動や取組みを進めています。その考え方を指針に含めようかと考えています。それでいいですか。

■ B 委員

はい。

● 事務局

本日欠席の C 委員からも事前にご意見をいただいております、地方分権の進展において、もう少し分権が進んだ姿までを書いたらいかかということでした。ふるさと未来づくりを分権の進んだ姿として取り入れてはどうかと考えています。

■ 会長

地域内分権や地域づくりという言葉があってもいいかもしれませんね。

●事務局

補完性の原理というのがありますが、この場合は、今市町村でやっていることを地域におろしていきましようという感じで進めています。

■会長

そこまで書けば、もっと積極的な一体感が出るのではないのでしょうか。地域内分権という言葉かどうかはともかく。

●事務局

市と地域との関係性を書けばよいですか。

■会長

地域だけでなく、企業なども含めて。

■B委員

予算が減ることはサービスの低下につながる。そうさせないためにも、地域住民の協力がある。それを書いた方がよいのではないのでしょうか。

■D委員

取組項目がない課もあるとのことでした。伊勢らしさという意味で、観光企画課でフェイスブックの取組みなどされているが、項目にあげることにはできないのでしょうか。せっかくやっていることなのであげないのはもったいないと思います。

●事務局

観光企画課では、携帯電話のGPS機能を用いたデータの分析を行い、企画に生かす取組みなどをしています。どういったものが行革の取組項目としてあげられるのかという相談を受けていますが、既にやっていることだと行革で取り上げるのは難しいと考えています。また、GPSデータを民間に提供できるのかが難しいものがあります。そこまでは、データの利用契約に入っていないかったりして、データを行政が自由にできない部分があります。行政のオープンデータ化も図らなければならないのですが、それが使えれば取組項目を書けるのかもしれませんが。

■D委員

先進的なものなので、他自治体にも示すものになると思います。

●事務局

担当にもう一度確認します。GPS データの利用は、費用が高いこともあり今は観光だけが利用している状況です。

■D委員

引き続けているものも、バージョンアップすれば載せられるのか。職員はいろいろやっているなので、載せることができれば市民にも見ていただけたと思います。

●事務局

継続でも問題ないが、バージョンアップしないと行政の PR であれば他の方法もあります。

■D委員

職員が一生懸命ブログを書いているので、お金をかけずにこれだけのことができているということがあると思います。

●事務局

しかし、人件費はかかっています。

■B委員

バージョンアップやリニューアルは勇気が要るものです。他市町でも同じようなものがあると思いますが、伊勢市は神宮や大学があることが強みであると思います。今の指針案には伊勢の独自性が何もないのでは。そういったものを活かして運営するのも大切ではないでしょうか。そういうものが市民に伝わるような指針があったらいいと思います。

●事務局

GPS データの利用は実験的なものでした。今年予算でもその予算を付けています。バージョンアップも含めて再度確認します。

■E委員

平成 23 年度～平成 25 年度の改善は、3 年間で 614 件あったと書いてありました。それはこの取組項目とは別ですか。

●事務局

以前の改善制度は、大きな取組みを対象とするもので、提案者も固定化していました。614 件の改善は、個人の電話の位置を変えるなどの小さいものを含め

ているもので、行革の取組項目とは全く別のものです。

■会長

各課の取組みの中で、行革に合うものをあげてもらえるのですか。

●事務局

そうです。

■会長

観光企画課の場合は、公共サービスの見直しに含まれるのですか。どの課の項目もここに含まれるので、ここだけが膨らんでしまわないのでしょうか。

●事務局

行革の取組みのイメージがあって、各課で項目を書いてきます。振り分けは後付けのイメージだと思います。各課からもらった項目が結果的に行革になじまないものがあるかもしれませんが、できるだけお見せします。

■A委員

中期的な目標や短期的な目標がバラバラしていると思います。細かいものもあり、大中小入り混じっています。4年間なので、ある意味ざっくりと何かを推進するなど中長期的な目標にしておいた方がいいのではないのでしょうか。

●事務局

そこが難しいところで、大小あるのは分かっているのですが、ざっくりと推進とすると逆に具体的に動かないこともあると考えています。

■A委員

選択と集中は、捨てるのが難しいと思います。どの事業にも対象者がいるので。何かの委員会を組まないと、各課で落とすのは難しいと思います。

●事務局

切るや捨てるまで行かなかったのですが、事業の点検をしました。行政改革推進委員に携わってもらい、担当が説明して、意見をしました。点検は次のステップにつなげてもらいたいと言われてはいますが、まだ考えられていません。

■A委員

方法論まで言わなくても、指針なのでこれを見直しますと書いておけば、各課が考えるのではないかと思います。

●事務局

財政の答えの出せないものも含めて書いていくと、取組項目にあげられないものが当初はあると思います。そうすると議会でご意見をいただくので、それで進めていくという考え方もあると思います。

■A委員

はい。

■D委員

改善の担当課はどこですか。

●事務局

職員課で今も継続してやっています。取り組みやすくなった反面、振り返りがしづらくなっていることについて投げかけていますが、項目にはあがっていません。

■会長

職員が行革は別のもので考えてもらおうと困ります。組織風土や意識改革につながると思います。事業総点検で、行革の視点を全課に持ってもらった自負があります。それが今回は指針の視点で、ここから各課が改善を提案していただく。そういった認識を全職員の方に持ってもらったらいいかと思います。行革はトップダウンでは駄目だというのがあり、ボトムアップであげてもらっているのだと思っています。

■B委員

問題意識を持ってやってもらうことが、根底にあると思っています。

●事務局

全てが人材育成にかかってくると思います。全ての職員がそうなっていれば行革は要らないが、なかなかそうはなっていないのです。事業総点検でも全ての事業をみることはできなかつたため、そのエッセンスを広げることとしましたが、まだまだ行き渡っていないと思います。

■B委員

役所の仕事は細かい法律に基づいているので、すぐにはできないものと思います。人材育成は銀行でも大切です。

●事務局

法律や決め事があるって、市民の求めるものにならないなら、古い決め事を変える職員になってほしいと思っています。どちらが大切か判断できる職員にならないといけないと思います。

■E委員

提案制度は、市で評価されたとのことですが、市民の前に出ることはなかったのですか。市役所の中だけで完結したのでしょうか。

●事務局

はい。

■A委員

人材育成アクションプランを見てみたいです。見直しはどのようなふうに見直すのですか。また、各取組項目のPDCAのタイミングはいつごろですか。

●事務局

Dは一年を通して。C、A、Pは、4月に照会をして6月に議会に報告します。また、新規の取組項目の募集も毎年4月にしていますが、あがってくるものは少ないのが現状です。

ただし、事務局でのタイミングはそうですが、現場ではもっと早いかもしれません。予算事業であれば、翌年度予算は秋から1月に固まります。

■会長

反映するのですか。

■A委員

反映はしなくていいです。指針に書いてしまうと実際の動きと違うものになってしまいます。

■D委員

市民への公表はどうするのですか。

●事務局

計画ができた段階と、毎年度の実績をホームページに掲載して公表しています。

行革担当としては毎年新たに取り組んでもらいたいのですが、前回の大綱の途中で新規であがったのは3つぐらいでした。短期的に終わっていくものは、

本来的な目標には到達していないと思います。何かのシステムを入れますということであれば、入れたら次のステップが上がってこないというのが、課題であり弱みです。推進する立場の担当はもっと強く言っていけないのかなと思います。

■会長

修正を求めている部分は基本のところぐらいでしょうか。

●事務局

A委員ご指摘の事業見直しを入れた方がいいのではないのでしょうか。

■A委員

4ページに具体的に書かれているのでよいのかと思います。進行管理が大変だなと思う。しっかり管理していくのが大事なんだなど。現実的には再募集で項目が上がってくるのは難しいのではないのでしょうか。

●事務局

ある程度は整えたいと考えています。局でも考えているものはあります。積極的にできるものも含めて書いてもらったと言われました。課題は認識していますが、できなかったときのことを考えてしまうため、ハードルが高いものはこういうものにはなかなか上げられないというのがあります。前に委員が言っていたチャレンジができるとういと思っています。

■A委員

チャレンジが色で現れるといいですね。

●事務局

組織風土の改善ですね。

■A委員・B委員

そのとおりです。

■会長

反映いただくのは、地方分権の部分と、推進体制の各課とのやりとりの部分でよかったですか。

●事務局

修正案を事前にお渡しできるようにします。

■会長

中長期の話はどうか。

●事務局

項目の整理をしたいと思います。

■A委員

具体的な取組項目とシートが対になるなら、全て載せた方がいいかもしれません。載せないとやらない場合があるかもしれません。

●事務局

墨付き括弧だけ書いておくこともできるかもしれません。表記の仕方を変えた方がよいとの思いもあります。

■A委員

今回はよくても、第4次はどうでしょうか。毎年度、単課で組み立てるのは難しいと思います。

●事務局

今までは、取りまとめて議会への報告の機会しか持っていませんでしたが、もう少し早い段階に意見する機会を持っておいてもよいかもしれません。

■A委員

具体的な取組案が出てないよと言う機会があってもいいですね。

●事務局

もう少し早く、予算要求のタイミングに合わせて秋口がよいかもしれません。検討させてください。

■会長

本日は、指針案についての具体的なお意見をいただきましたので、事務局の方で本日の意見、議論を加え、指針案を修正していただき、次回の会議で確認をしていきたいと思います。それでは、次回会議までに事務局で修正案の作成をお願いします。

●事務局

それでは、本日の会議を閉会します。ありがとうございました。